

陳 情 文 書 表

(教育委員会)

受 理 番 号	1 9 5 1	受 理 年 月 日	令 和 6 年 5 月 30 日
件 名	山科区における学校調理方式による中学校給食の実施		
要 旨	<p>京都市教育委員会は、昨年11月に全員制の中学校給食の実施について、2万6,000食を1か所の給食センターで調理し、全市の市立中学校へ配送する案を発表した。全員制の中学校給食が実施に向けて動き出したことは大きな前進であるが、実施方法については1か所の大規模給食センター建設の方針を撤回し、再検討することが必要である。</p> <p>京都市の小学校では、多くの給食関係者や教育委員会の努力によって、安全な食材による和食を採り入れた自校方式の給食が行われ、子供や保護者に喜ばれている。中学校においては、20年以上選択制でデリバリー給食が行われてきた。</p> <p>山科区は他行政区に比べて就学支援を受けている子供が多い現状の下、就学支援家庭の子供が無償にもかかわらずデリバリー弁当を頼まない原因として、おかずが冷めていて薄味だと食べにくいから残すという声もあり、給食は出来たてであることが求められている。</p> <p>中学校給食は成長期の子供たちにとって健康や成長を支える大きな栄養源である。家庭の状況によっては、1日の栄養源を給食に頼らざるを得ない生徒もいる。献立を考える栄養教諭や給食調理員、担任の関わり、地元の生産者等の人々の関わりがより豊かな食育につながる。山科区までトラックで運ばれる大規模センターの給食は、出来てから時間がたつため、食感や香り、温かさ、味がそのまま中学生に届くのか疑問である。また、交通渋滞が予想されるため、2時間以内に届くのか食中毒等の被害の拡大も懸念する。</p> <p>山科区は過去に河川の氾濫による水害も経験しており、自然災害が多発する昨今、中学校に給食室を造ることは災害時にも機能を発揮するのではないか。</p> <p>山科区内で学校調理の給食を望む。山科区には花山中学校、勤修中学校等、生徒の人数基準に比してグラウンドが広い中学校もある。グラウンドに給食室を建設し、自校方式や他校へ運ぶ兄弟方式の給食は実現可能ではないか。</p> <p>については、以下のことを再度検討願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小学校のような栄養教諭の配置、給食調理員の作った学校調理の給食にすること。</li> <li>2 山科区的全員制の中学校給食の実施に当たっては、子供たちが出来たての給食を食べられるよう自校方式、兄弟方式を含めた再検討をすること。</li> </ol>		
陳 情 者			
回 付 委 員 会	文教はぐくみ委員会		